



「国立科学博物館 大学パートナーシップ」
利用来館者調査
＜アンケート調査結果＞
（令和6年11月～令和7年1月 実施）

独立行政法人国立科学博物館
学習支援部 学習課



1. 「国立科学博物館大学パートナーシップ」制度について

独立行政法人国立科学博物館は、大学、短期大学、専修学校（専門課程）及びこれらを設置する法人と連携・協力し、学生の科学リテラシー及びサイエンスコミュニケーション能力の向上に資することを目的として、平成 17 年 7 月より「国立科学博物館大学パートナーシップ」制度を開始した。

本制度に入会申込を行い、学生数に応じた一定の年会費を納めた大学等（入会校）の学生に対し、以下のような連携プログラムを提供している。

① 常設展の無料入館、特別展の特別料金での観覧

入会校の学生は、学生証を提示することで、国立科学博物館上野本館の常設展、附属自然教育園（東京都港区）及び筑波実験植物園（茨城県つくば市）に無料で何度でも入館（入園）できる。

また、上野本館で開催される特別展は、一般・大学生料金より 630 円引きで観覧できる。

※特別展によって 630 円引きにならない場合がある。

② サイエンスコミュニケーター養成実践講座（平成 18 年度より）

科学と社会との架け橋となるサイエンスコミュニケーター養成のための実践講座。

入会校の学生を優先的に受入れ、また、入会校の学生は通常の半額で受講できる。

③ 大学生のための自然史講座（平成 18 年度より）

日本列島の自然、自然史について、当館の研究者を中心に様々な分野からアプローチする講座。

入会校の学生を優先的に受入れ、また、入会校の学生は通常の半額で受講できる。

④ 大学生のための科学技術史講座（平成 19 年度より）

日本の科学技術史に関して、主に当館の研究者が講師となり様々な分野からアプローチする講座。

入会校の学生を優先的に受入れ、また、入会校の学生は通常の半額で受講できる。

⑤ 博物館実習生の受入（平成 18 年度より 2 コースを設ける）

博物館学芸員の資格取得を目指す学生に対し、学芸員としての資質・能力を体験的に身につける実習を行う。平成 18 年度から、調査研究・標本資料の収集保管について実習を行うコースと、学習支援活動について実習を行うコースの 2 コースを設けている。

原則として入会校の学生のみを受入れる。

⑥ 見学ガイダンスの実施（平成 26 年度より）

大学のオリエンテーションや講義で当館を利用してもらい、学生に博物館の楽しさや面白さ、見学の仕方を知ってもらうガイダンスを実施。令和 2 年度より、映像の貸し出しによる遠隔のガイダンスにも対応している。

入会校のみ利用可、各校年 2 回までの実施。

⑦ 大学との連携事業

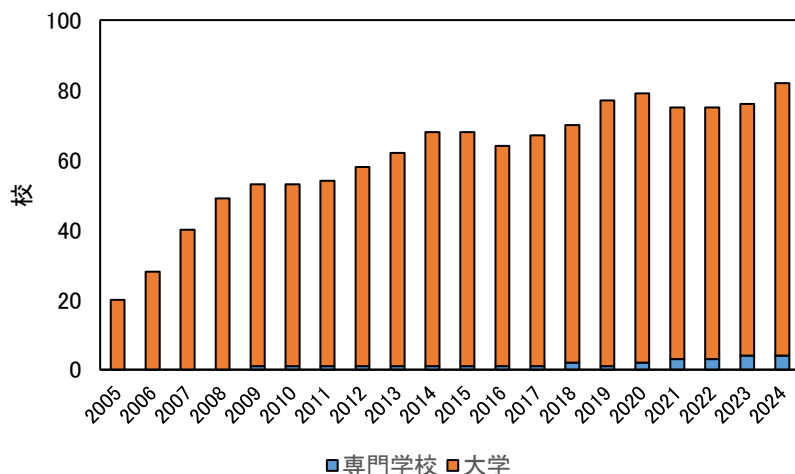
自然史に関する実習の機会をより広く提供するため、平成 28 年度よりお茶の水女子大学との連携事業を行っている。

入会校の学生の優先枠を設け、講座参加者を募集している。

2. 令和6年度入会校

ア行	青山学院大学 麻布大学 桜美林大学 大妻女子大学(短期大学部) お茶の水女子大学
カ行	学校法人香川栄養学園(女子栄養大学・短期大学部、香川調理製菓専門学校) 学習院大学 神奈川大学理学部 鎌倉女子大学(短期大学部) 慶應義塾大学 工学院大学 国際基督教大学 国際文化理容美容専門学校 国土館大学文学部 国土館大学理工学部(大学院工学研究科)
サ行	埼玉大学 相模女子大学学芸学部メディア情報学科 芝浦工業大学 秀明大学学校教師学部 十文字学園女子大学 上智学院(短期大学部) 総合研究大学院大学
タ行	大正大学 第一工科大学工学部情報・AI・データサイエンス学科 玉川大学 多摩美術大学 千葉大学理学部(大学院融合理工学府(理学領域)) 中央大学理工学部(大学院理工学研究科) 筑波大学 津田塾大学 帝京大学(短期大学) 帝京科学大学 電気通信大学 東海大学 東京大学 東京医療学院大学 東京医療保健大学 東京音楽大学 東京海洋大学 東京科学大学 東京学芸大学 東京家政大学(短期大学部) 東京環境工科専門学校 東京藝術大学 東京工科大学 東京工芸大学 東京国際大学(付属日本語学校) 東京慈恵会医科大学 東京女子大学 東京造形大学 東京電機大学 東京電子専門学校 東京都市大学 東京都立大学 東京都立産業技術大学院大学 東京農業大学 東京農工大学 東京理科大学 東邦大学 東洋大学 学校法人東洋学園(専門学校東洋公衆衛生学院、宮崎医療管理専門学校) 獨協大学
ナ行	二松学舎大学 日本大学芸術学部 日本大学生物資源科学部 日本大学文学部生命科学科(大学院総合基礎科学研究科相関理化学専攻) 日本大学文学部地球科学科(大学院総合基礎科学研究科地球情報数理科学専攻) 日本獣医生命科学大学 日本女子大学 日本薬科大学
ハ行	文教大学 法政大学
マ行	武蔵大学 武蔵野美術大学 明治大学 明治学院大学文学部芸術学科(大学院文学研究科芸術学専攻) 明治薬科大学
ヤ行	学校法人ヤマザキ学園(ヤマザキ動物看護大学・動物看護専門職短期大学・動物専門学校) 横浜国立大学
ラ行	立教大学 立正大学
ワ行	学校法人早稲田大学(早稲田大学、早稲田大学芸術学校)
計 82 校	

-入会校数の推移-



3. 令和6年度大学パートナーシップ利用入館者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
上野地区	5,139	5,060	5,277	4,222	5,779	5,207	3,599	4,227	4,288	4,551	7,113	5,602	60,064
附属自然教育園	114	196	138	51	57	91	144	234	154	50	111	115	1,455
筑波実験植物園	361	281	173	166	249	204	392	262	248	151	329	341	3,157
3施設合計	5,614	5,537	5,588	4,439	6,085	5,502	4,135	4,723	4,690	4,752	7,553	6,058	64,676

<参考>

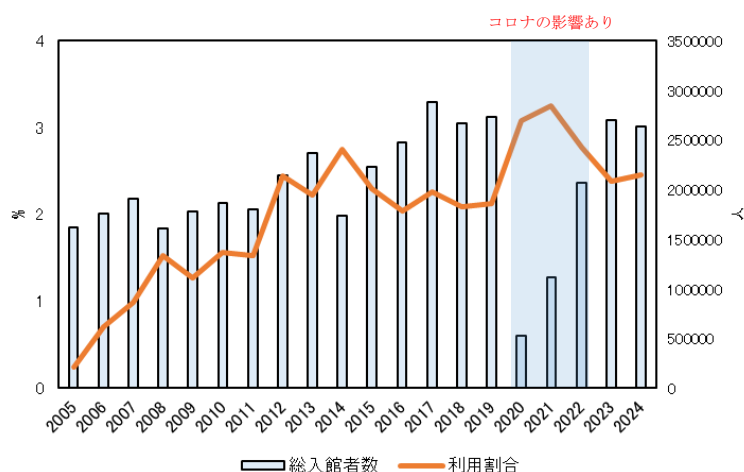
入館者数の多い大学・学校(上位5校)

学校名	入館者数
東京大学	5,325 人
早稲田大学	4,774 人
筑波大学	4,178 人
明治大学	2,759 人
慶應義塾大学	2,624 人

利用率の高い大学・学校(上位5校)

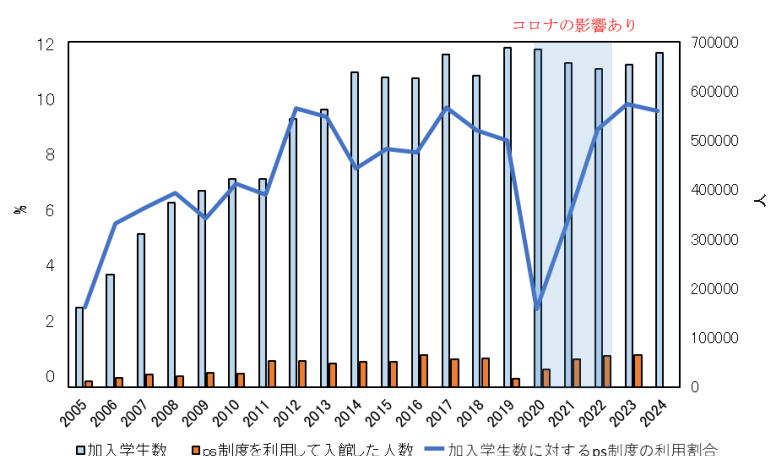
学校名	利用率(利用者数/学生数)
東京環境工科専門学校	208.6%
日本大学文理学部生命科学科	76.8%
日本大学文理学部地球科学科	64.9%
日本獣医生命科学大学	37.9%
東京海洋大学	34.3%

-総入館者数と制度を利用した人数の割合推移-



・総入館者数のうち、制度を利用している入館者数は 2%程度。

-加入学生数に対する利用割合の推移-



・制度に加入している学生数に対して、制度を利用しているのは 10%程度。

4. 入館者に対するアンケート調査

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」制度の入会校は、令和6年度 82 校、月平均 5,400 名程度の利用者数を数えるようになっている。

本調査は3年毎に行っており、令和3年度に引き続き実施し、経年の変化・当該制度の認知度・利用者の属性等を調査し制度の一層の充実を図るとともに、入会大学における学生等への広報の方法についての検討に活用することを目的として実施した。

調査概要

調査期間：令和6年11月26日（火）～ 令和7年1月24日（金）

調査対象：国立科学博物館上野本館にて大学パートナーシップ制度を利用し入館した学生

調査方法：オンラインアンケート調査（グーグルフォームを使用） 発券窓口（総合案内及び特別展券売所）にて、入館券発券時にアンケート実施案内（チラシ）を配布

調査項目：巻末の参考資料を参照

有効回答数：518 件

（参考：調査期間中の特別展・企画展）

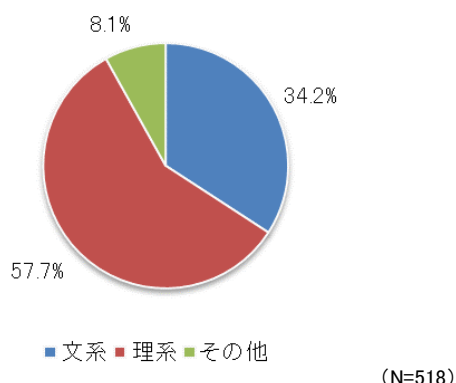
- ・特別展「鳥～ゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統～」(11/2～2/24)
- ・企画展「貝類展 人はなぜ貝に魅せられるのか」(11/26～3/2)
- ・企画展「小惑星からのサンプルリターンー『はやぶさ』と『はやぶさ2』そして『MMX』へー」(12/17～1/13)

調査結果

【専攻分野】

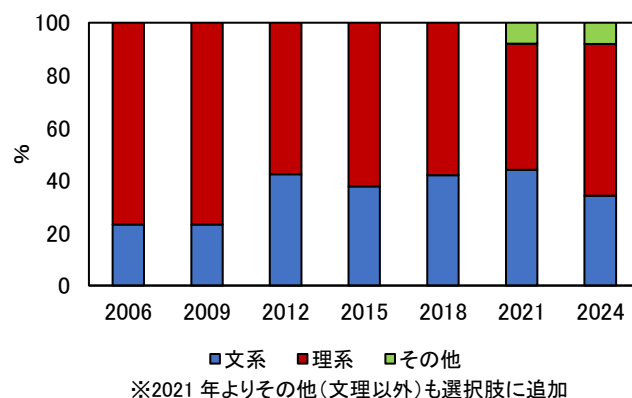
理系 57.7%:文系 34.2%:その他 8.1%で理系学生が6割弱を占めた。

理系の学生が多い傾向は変わらないが、割合が10%ほど増加した(令和3年度理系 48.0%)。

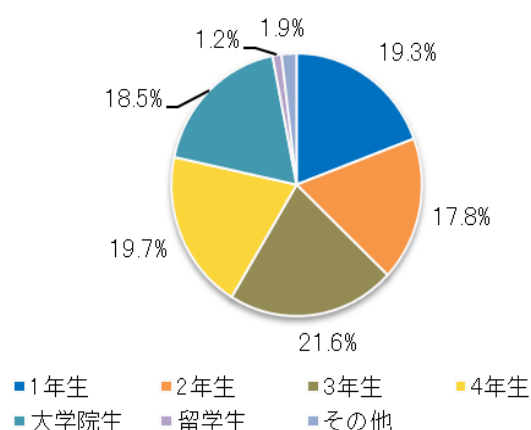


	回答数	構成比率
文系	177	34.2%
理系	299	57.7%
その他	42	8.1%

－文理比率の推移－



【回答者の学年】



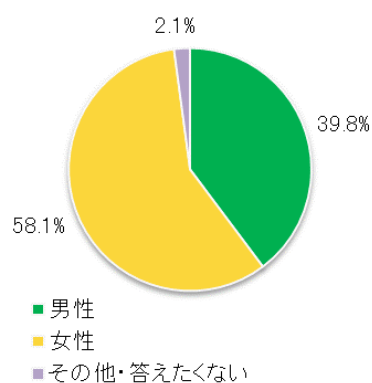
(N=518)

	回答数	構成比率
1年生	100	19.3%
2年生	92	17.8%
3年生	112	21.6%
4年生	102	19.7%
大学院生	96	18.5%
留学生	6	1.2%
その他	10	1.9%

【性別】

男性 39.8%:女性 58.1%:その他 2.1%と女性が多い。

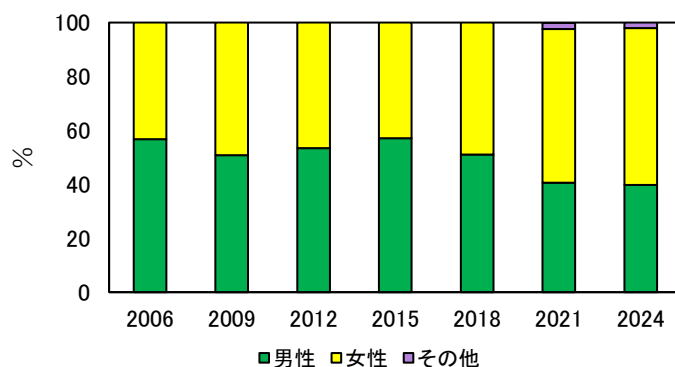
男女の割合は前回調査とほぼ同じであった。クロス集計では理系女性の割合が約 10%増えた。



(N=518)

	回答数	構成比率
男性	206	39.8%
女性	301	58.1%
その他・答えたくない	11	2.1%

ー男女比推移ー

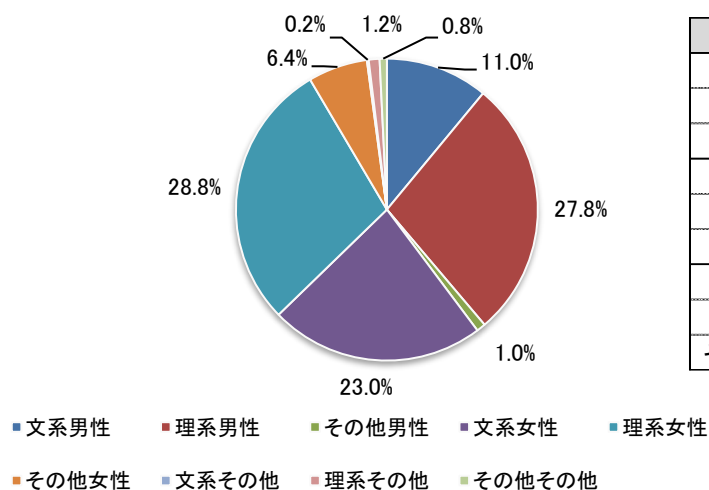


※2021 年よりその他、答えたくないも選択肢に追加

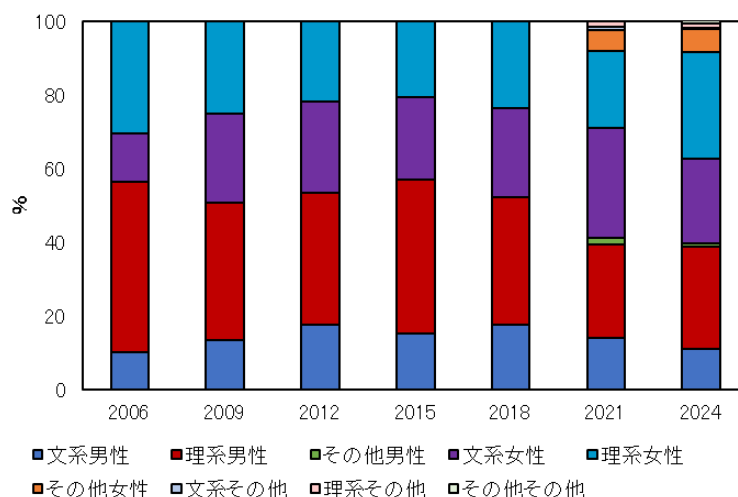
・女性の割合が高くなってきている。

【回答者の専攻分野と性別】

(N=518)



	回答数	構成比率
文系男性	57	11.0%
理系男性	144	27.8%
その他男性	5	1.0%
文系女性	119	23.0%
理系女性	149	28.8%
その他女性	33	6.4%
文系その他	1	0.2%
理系その他	6	1.2%
その他その他	4	0.8%



・理系男性の利用割合は減少しているが、大学パートナーシップ制度を利用して入館している人数が増加しており、利用人数そのものが減少しているものではない。

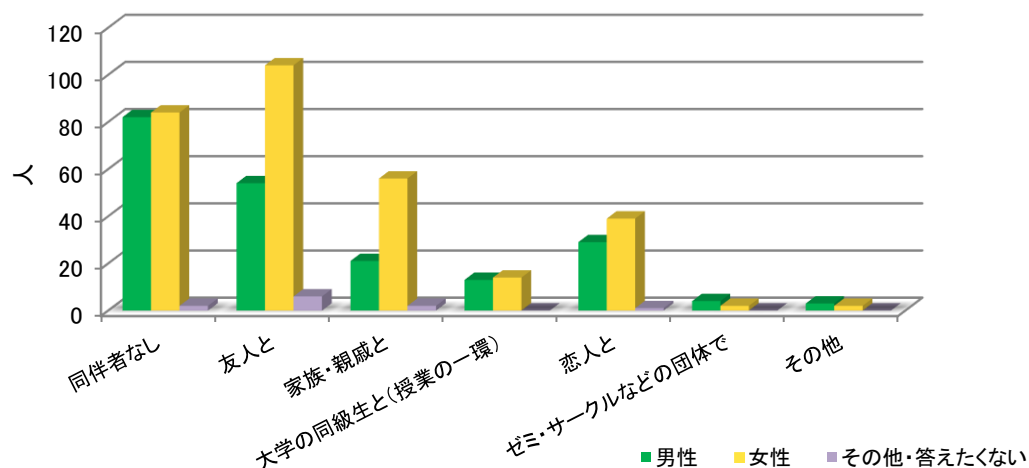
[参考]

2006 年 制度を利用した入館者数:12,517 人、理系男性の割合:46.5% 5,820 人

2024 年 制度を利用した入館者数:64,676 人、理系男性の割合:27.8% 17,980 人

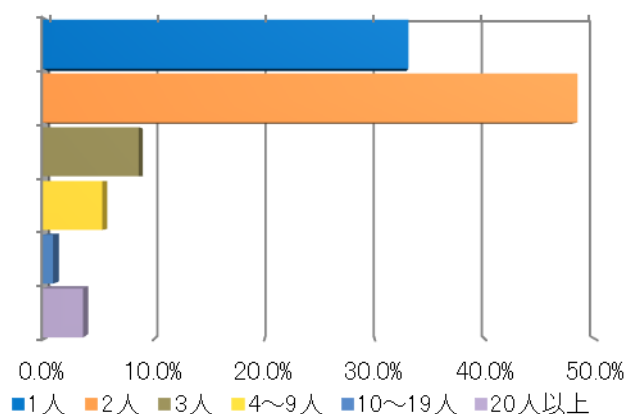
【一緒に来た人、人数】

同伴者ありが 67.7%で、「友人と」31.7%、「家族・親戚と」15.3%の順となった。「大学の同級生と(授業の一環)」が3年前の調査から増加(1.8%→5.2%)した。同伴者なしは 32.4%で、前回調査時からわずかながら減少(34.9%→32.4%)した。



(N=518)

	回答数	構成比率
同伴者なし	168	32.4%
友人と	164	31.7%
家族・親戚と	79	15.3%
大学の同級生と(授業の一環)	27	5.2%
恋人と	69	13.3%
ゼミ・サークルなどの団体で	6	1.2%
その他	5	1.0%



(N=518)

	回答数	構成比率
1人	171	33.0%
2人	250	48.3%
3人	45	8.7%
4~9人	28	5.4%
10~19人	5	1.0%
20人以上	19	3.7%

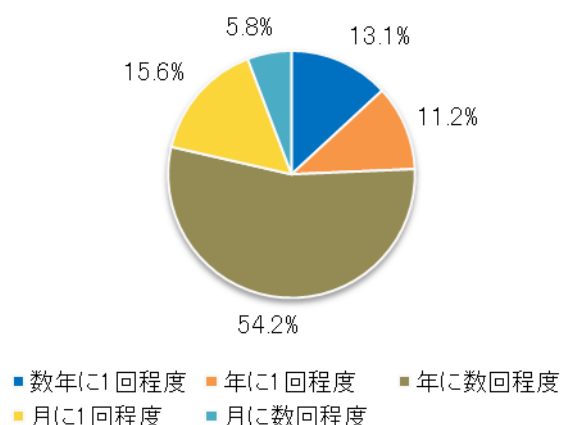
・1～2人での来館が多い。(計 81.3%)

【来館回数、大学パートナーシップ利用来館回数】

来館回数は「4 回目以上」(61.6%)が最も多かった。この傾向は前回調査と同様だが、割合としては10%強(48.2%→61.6%)増加した。

本制度を利用しての来館については「初めて」は 38.4%だった。この割合は、前回調査より 17.3% (55.7%→38.4%)減少した。「これまで本制度を利用しなかった理由」も変わらず、「利用機会がなかった」44.2%が最も多いが、「制度を知らなかったから」が前回の 24.6%に比べて 21.1%と減少した。

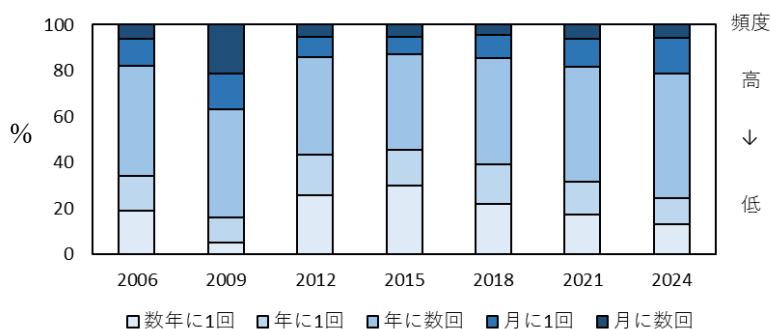
-博物館や美術館へ行く回数-



(N=518)

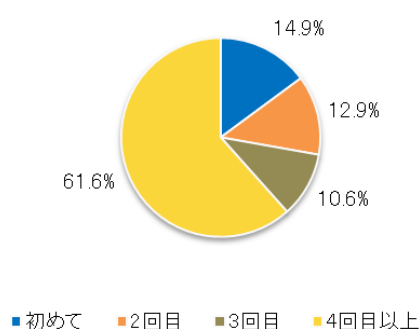
	回答数	構成比率
数年に1回程度	68	13.1%
年に1回程度	58	11.2%
年に数回程度	281	54.2%
月に1回程度	81	15.6%
月に数回程度	30	5.8%

-美術館・博物館に行く頻度の割合-



美術館や博物館に行く頻度は、「年に数回程度」が多い。

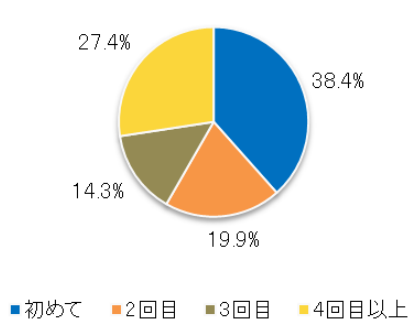
-国立科学博物館への来館回数-



(N=518)

	回答数	構成比率
初めて	77	14.9%
2回目	67	12.9%
3回目	55	10.6%
4回目以上	319	61.6%

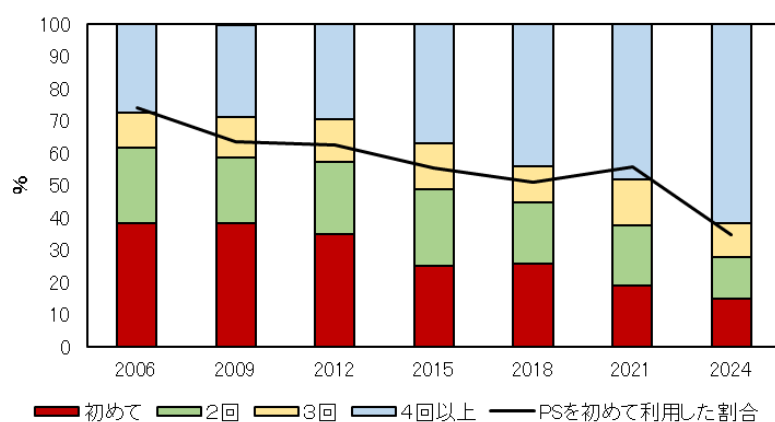
ー大学パートナーシップ制度を利用しての来館回数ー



(N=518)

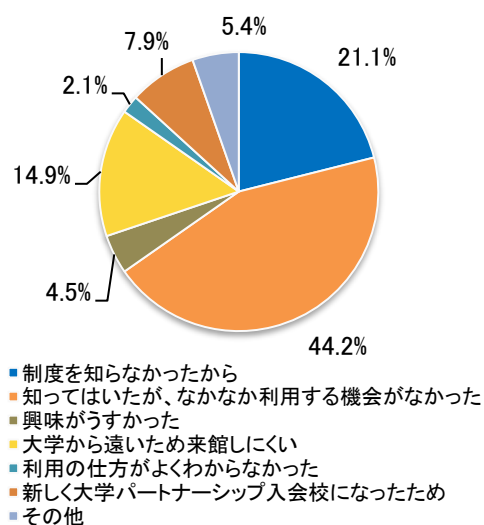
	回答数	構成比率
初めて	199	38.4%
2回目	103	19.9%
3回目	74	14.3%
4回目以上	142	27.4%

ー制度を利用しての来館推移ー



・制度が浸透してリピーターが増えていることがうかがえる。

【これまで大学パートナーシップ制度を利用しなかった理由】(複数回答可)



(N=199)

	回答数	構成比率
制度を知らなかったから	51	21.1%
知ってはいたが、なかなか利用する機会がなかった	107	44.2%
興味があつた	11	4.5%
大学から遠いため来館しにくい	36	14.9%
利用の仕方がよくわからなかった	5	2.1%
新しく大学パートナーシップ入会校になったため	19	7.9%
その他	13	5.4%

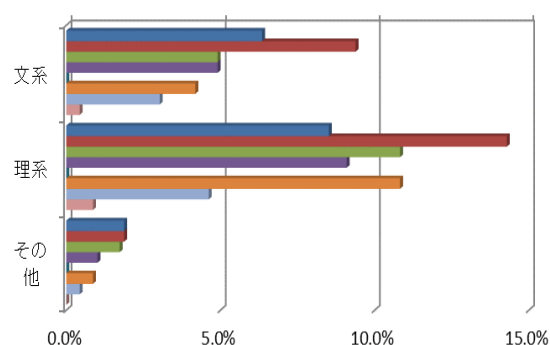
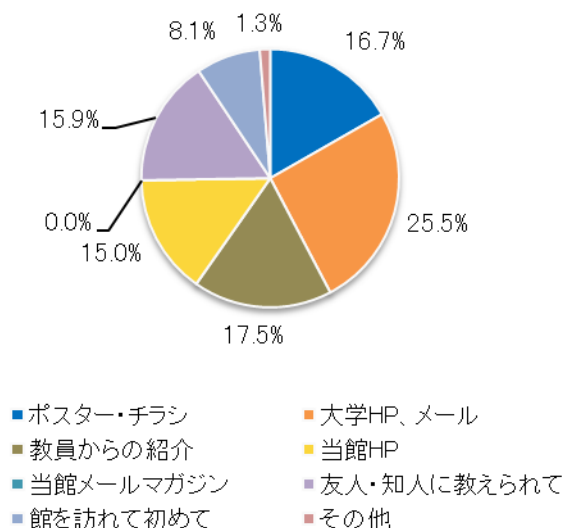
・制度を利用しなかった理由としては、「なかなか利用する機会がなかったから」が約半数を占めている。2015 年から追加した「制度を知らなかったから」の項目の割合は、減少してきており、制度が年々浸透してきていることがうかがえる。

(2015 年は 47.1%→2024 年は 21.1%に減少)

【本制度に関する情報源】

「大学ホームページや大学からのメールで」25.5%が他の項目と比べて一番多い。次いで「教員からの（授業での）紹介」17.5%、「大学に掲示されていたポスター・チラシ」16.7%がこれに続く。3項目を合わせると59.7%となり、大学が発する情報が重要なことがわかる。

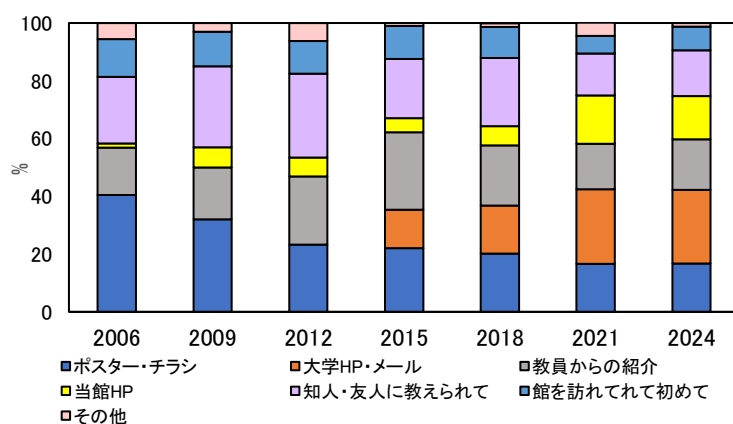
－本制度（入館料特典）に関する情報源－



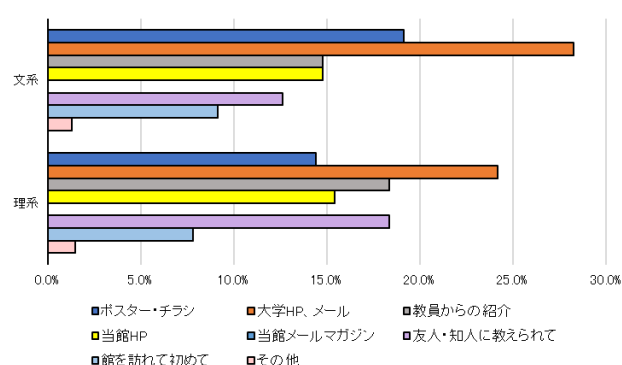
(N=518)

	全体(N=518)		文系(N=177)		理系(N=299)		その他(N=42)	
ポスター・チラシ	116	16.7%	44	19.1%	59	14.4%	13	24.1%
大学HP、メール	177	25.5%	65	28.3%	99	24.2%	13	24.1%
教員からの紹介	121	17.5%	34	14.8%	75	18.3%	12	22.2%
当館HP	104	15.0%	34	14.8%	63	15.4%	7	13.0%
当館メールマガジン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
友人・知人に教えられて	110	15.9%	29	12.6%	75	18.3%	6	11.0%
館を訪れて初めて	56	8.1%	21	9.1%	32	7.8%	3	5.6%
その他	9	1.3%	3	1.3%	6	1.6%	0	0.0%

－制度の情報源各割合の変化－



※文系・理系を1:1にした場合の各割合

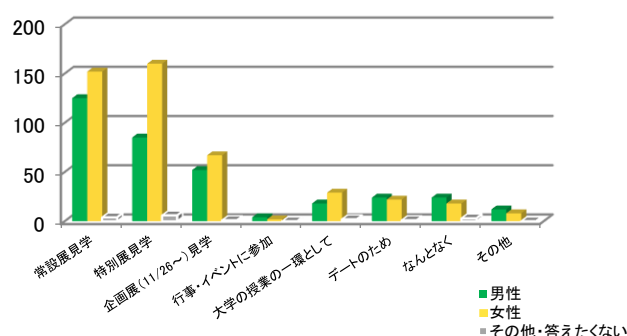


・大学が発する情報のうち、ポスター・チラシから情報を得る割合は年々減り、代わりに大学HP・メールからが増加している。

【来館目的】

前回調査時は、特別展を目的に来館した割合が最も多かった（特別展 36.9%、常設展 34.9%）が、今回は、常設展 34.3%、特別展 30.6%、企画展 14.7%の順に多く、常設展を目的に来館した割合が最多となった。また、企画展を目的に来館した割合（12.9%→14.7%）が増えた。

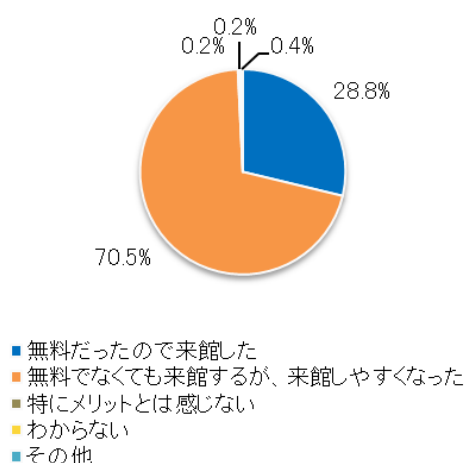
(N=518)



	回答数	構成比率
常設展見学	281	34.3%
特別展見学	251	30.6%
企画展(11/26～)見学	120	14.7%
行事・イベントに参加	6	0.7%
大学の授業の一環として	49	6.0%
デートのため	47	5.7%
なんとなく	45	5.5%
その他	20	2.4%

【入館料特典(常設展は無料、特別展は 630 円引き)をどのように感じるか】

「無料(630 円引き)だったので来館した」28.8%と「無料でなくても来館するが、来館しやすくなった」70.5%を合わせてほぼ 100%と、多くの学生にとって、本制度が来館の動機につながっている。



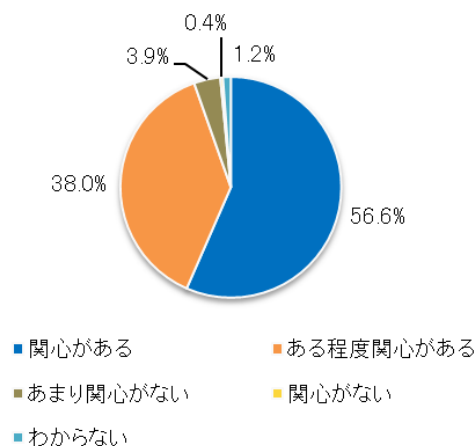
(N=518)

	回答数	構成比率
無料だったので来館した	149	28.8%
無料でなくても来館するが、来館しやすくなった	365	70.5%
特にメリットとは感じない	1	0.2%
わからない	1	0.2%
その他	2	0.4%

【自然科学についてのニュースや話題への関心】

前回調査と変わらず、9 割以上が「関心がある」「ある程度関心がある」と回答した。

－自然科学についてのニュースや話題への関心



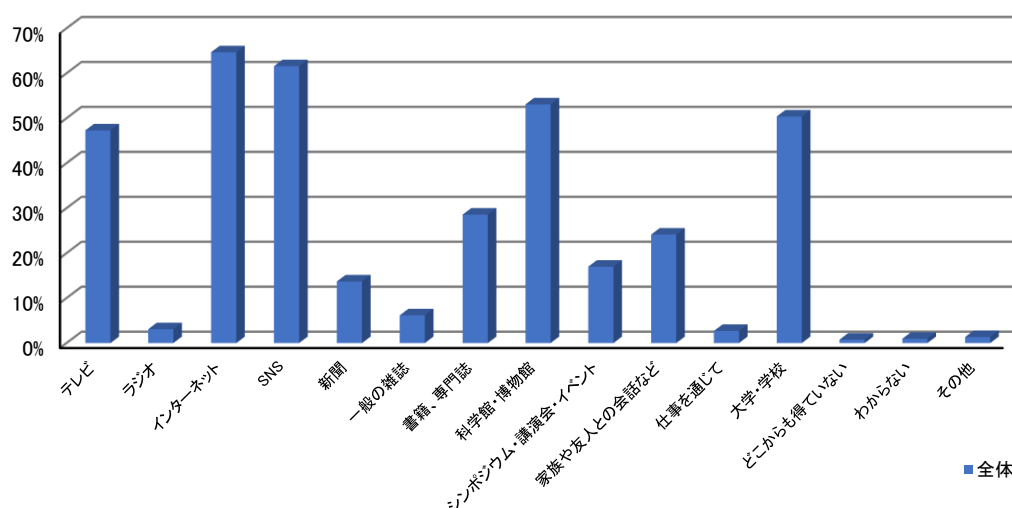
(N=518)

	回答数	構成比率
関心がある	293	56.6%
ある程度関心がある	197	38.0%
あまり関心がない	20	3.9%
関心がない	2	0.4%
わからない	6	1.2%

【自然科学に関する知識の情報源】

全体 1・2 位は前回調査と変わらず、「インターネット」65.0%が最も多く、「SNS」62.0%が2位となった。
「科学館・博物館」を情報源とする割合は全体 53.0%と前回の 39.9%より増加した。

－自然科学に関する知識の情報源(複数回答可)－



各区分における上位6項目(複数回答 回答数/各回答者数)

(N=518)

順位	全体 (N=518)		文系 (N=177)		理系 (N=299)		専攻分野その他 (N=42)	
1	インターネット	65%	インターネット	60%	インターネット	67%	インターネット	69%
2	SNS	62%	SNS	57%	SNS	65%	テレビ	57%
3	科学館・博物館	53%	テレビ	53%	大学・学校	65%	SNS	55%
4	大学・学校	50%	科学館・博物館	51%	科学館・博物館	55%	科学館・博物館	48%
5	テレビ	47%	大学・学校	28%	テレビ	43%	大学・学校	38%
6	書籍・専門書	29%	書籍・専門書	23%	書籍・専門書	32%	書籍・専門書	29%

※理系 2 位は、「SNS」「大学・学校」が同率

順位	男性 (N=206)		女性 (N=301)		性別その他 (N=11)	
1	インターネット	69%	インターネット	62%	SNS	82%
2	SNS	61%	SNS	61%	大学・学校	
3	科学館・博物館	52%	科学館・博物館	53%	科学館・博物館	64%
4	大学・学校		テレビ	49%	インターネット	55%
5	テレビ	46%	大学・学校	48%	書籍・専門書	27%
6	書籍・専門書	34%	家族や友人との会話など	27%	家族や友人との会話など	

※男性 3 位は、「科学館・博物館」「大学・学校」が同率

※性別その他 1 位は、「SNS」「大学・学校」が同率

※性別その他 4 位は、「書籍・専門書」「家族や友人との会話など」が同率

・インターネットや SNS を情報源にする学生が多い。

【本制度をどのように PR するとより利用しやすくなるか(記述式)】

大学・学校での積極的な広報を求める声が多く挙がった(具体的には、入学時のガイダンス等でのアナウンス、ポスター・チラシの設置、授業での紹介、大学・学校ホームページや電子掲示板・学内メールでの周知など)。また当館へ更なる広報の工夫を求める声も多かった(ホームページやポスターへ本制度や入会校をわかりやすく掲載する、Twitter 等 SNS やメールマガジンによる広報を増やすなど)。

【見学の印象・感想(記述式)】

特別展(鳥展)への感想が多く寄せられた。企画展「貝類展」への感想がそれに続き多かった。常設展では、系統広場・大地を駆ける生命・恐竜・地球史ナビゲーターなどを中心に、広範囲にわたって印象に残った展示の回答があった。また、順路がわかりにくい、子供しか入れないコーナーがあるのが少し寂しい等の声が寄せられた。

【本制度に関する意見・要望(記述式)】

常設展を無料で何度も見られるのは大変ありがたく、来館の動機になるという意見が多数であった。一方、特別展の値引き幅を増やしてほしい、未入会校生と来館する際気まずいので入会校を増やしてほしいなどの意見があった。

－記述式(抜粋)－

展示の印象・感想(好意的なもの)	
いつも来るとワクワクします。日本館は建物がかっこいいので展示を見るだけでなく建物を眺めるのも楽しいです。	大学3年
生き物の多様性を知ることができる系統広場が好きで、時間がない日は、地球館 1 階を見るだけのために入館することもあります。大学パートナーシップのおかげで気軽に出入館することができるので、とても嬉しいです。	大学3年
日本館 2F 北翼の日本人と自然の私たちの祖先の模型が展示されているコーナーが印象に残っている。まず、リアルすぎる再現度に驚いた。また、リアルだからこそ想像しやすく、記憶に残りやすいと思う。何より、私たちの祖先について学ぶ意欲が湧いた。	大学1年
子供のときによく来ていて、懐かしくなった。当時は化石や剥製に興味を持っていたが、地球館の地下には、大学(理系)で学んだこと(日本の科学者コーナー、モルなどを学ぶコーナーなど)が視覚化されていて、大人も楽しく学ぶことができた。 また家族と一緒に来たいです。	大学院生
今まで会ったことのない生き物たち、そしてハチ公やジロなど、有名な動物たちの標本が展示されている点が非常に魅力的だと感じました。初めて訪れたのは幼少期ですが、今まで話にしか聞いたことのなかった動物たちを実際に目にしたことで、とても興奮したのを覚えています。また、個人的には鉱石に興味があるため、『日本の鉱物』『日本に落下した隕石』も印象的でした。	大学2年

座っているティラノサウルスの展示は、この博物館独特のものなので好きです。常設展、地球館一階の展示が特に大好きで特別展で来ても絶対に来ます。系統広場の真核生物などの目に見えない生物の模型が変わった姿をしていて、その透明感なども大好きです。	大学2年
コンピュータの展示が極めて興味深かった。現代の若者は情報技術を当たり前のように利用しているが、それが無かった昔にはどのような苦労があり、また、我々が如何に快適なサービスを楽しんでいるか改めて考えさせられました。特に、旧国鉄の座席予約システムに関する動画が面白かったです！	大学3年
理科4分野全てを網羅した展示がされていて魅力的に感じた。大学の授業で学習していることを更に深く学習できて楽しかった。学習習得度や年齢に差があっても楽しめる科学館だと思う。もっとこのような科学館を増やしてほしい。特に、印象に残った展示は地下3階の天文分野の展示である。天文分野について展示している科学館は少なく、勉強するのが難しい。だが、当館では多くの模型を使って天文について説明していてわかりやすかった。	大学2年
展示の印象・感想(ご意見)	
ボタンで動かせる装置など体験型のコンテンツが多くて楽しかった。展示室が多く一気に見るのは大変だったので、休憩できるベンチがたくさんあったのも良かった。最初にどこから見始めたら良いか迷ったので、簡単におすすめの順路など書かれた看板があるといいなと思った。	大学4年
地球館3階のフクロオオカミが印象に残りました。絶滅した動物の剥製が見られたからです。個人的には子供しか入れないコーナーがあるのが少し寂しいです(以前はたんけん広場で森林の中に剥製がある場所だったのでそちらの方が大人も見れて楽しめました)。	大学3年
とても豊富な展示、資料だが、専門知識が無いと理解できない解説が目立った(特に地球館地下3階)	大学4年
大学パートナーシップ制度への意見・要望	
とてもいい制度だと思います！かかる費用の面での敷居が低くなるだけで、一気に行きやすくなります。	大学1年
小学生の頃からとても好きなお出かけスポットだった国立科学博物館をより気軽に訪れられる制度はとてもありがたいですし、嬉しいです！	大学1年
通信で通っているが、私達にも門戸を開いてくれるのは大変ありがたいです。自分の子にもこの制度のあることを話しているので、大学生になったら利用すると思う。	大学4年
私は都内在住ではなく、東京に来るまでに時間とお金がかかるので、割引や無料の制度があることはとてもありがたいです。とくに大きな博物館は常設展も非常に充実しており、何回かに分けて訪れることがあるのですが、パートナーシップ制度がなければこのような見方はしないと思います。とても助かっているなので、今後もこの制度を継続、充実させていってもらえればと思います。	大学院生
大学がメールでパートナーシップについてのメールを送っているので、認知度はあると思います。大学パートナーシップの入場券のデザインが味気ないのが寂しいです。	大学院生
この制度がなければ博物館に行こうと思うきっかけがなかったため、非常に良い制度だと思う。もうすぐ社会人になるが、大人になってからも定期的に来たいと思うきっかけになった。	大学4年

5. アンケート調査の結果から

回答した学生の学年に偏りはないが、4 割弱が「制度を利用して来館したのは初めて」と回答している。また、館への来館回数「4回目以上」が初めて 6 割を超えるなど、高頻度で来館する学生も増えている。引き続き来館してもらえよう、特別展・企画展やイベント等の情報を、タイミングよく高頻度で届ける工夫をする必要がある。また、制度を知らなかった・周りに知らない人が多いという学生へ、情報を届ける工夫をする必要がある。

制度に関する情報源として、大学での広報が多く挙げられていることから、入会大学・学校へ更なる協力を依頼するとともに、国立科学博物館も、SNSを利用するなど、学生に伝わりやすい方法で働きかけを行う。

○ポスター・チラシ等の掲示・配布について、引き続き入会大学・学校に協力を依頼する。

（学生の目に着く場所への掲出を依頼。）

○上記に加え、学生便覧への掲載・新入生ガイダンスでの紹介やチラシの配布・大学ホームページや電子掲示板への掲載・学内メールでの情報配信等、より認知されやすい方法での周知についても、引き続き依頼する。

（ホームページ等での掲載用に、電子データでの配布にも対応する。）

○国立科学博物館ホームページ・館内掲示等の表示について、より目につきやすいよう改善を行う。

○学生により情報が伝わる方法（Twitter・Instagram 等の SNS やメールマガジン）で、より広く広報を行う。

（4月の新学期、企画展・特別展の開催に合わせて情報を発信。）

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」
ご利用のみなさま



アンケート調査に ご協力をお願いします

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」制度をご利用いただき、ありがとうございます。
本制度をより充実させるために、アンケートを実施しております。ぜひご協力をお願いします。

実施期間：令和6年11月26日（火）～令和7年1月末ごろ（予定）

○結果は後日、大学パートナーシップ入会校へお知らせするとともに、国立科学博物館ホームページで公開します○

アンケートはこちらからご回答ください →



- ※このアンケートはGoogleフォームを使用しています。回答の送信者は特定されません。
- ※アンケートの回答により発生する通信料は、ご自身のご負担となります。
- ※館内の以下の場所では公衆無線LAN（Free Wi-Fi）をご利用いただけます。
日本館 1F中央ホール、B1Fラウンジ/地球館エスカレーターホール（M2F、1F、B1Fを除く）/中庭

URL
<https://forms.gle/rpeJeUYC7epoMtSP6>

●アンケートの回答方法●

本制度や当館のご利用状況についての質問が20問あります。
お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンをつかって、上記二次元コードまたはURLからアンケートページにアクセスし、ご回答ください。

★ご協力いただいた方に「特製バーチャル背景」をプレゼント★

アンケート回答完了画面に、ダウンロードページのURLが表示されます。
バーチャル背景の設定方法は、ご利用されているウェブ会議システムのホームページやヘルプにてご確認ください。




国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

アンケート(同内容をグーグルフォームに掲載)

※回答はGoogleフォームを使用

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」利用者アンケートのお願い

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」制度をご利用いただき、ありがとうございます。
本制度をより充実させるため、みなさまのご協力をお願いいたします。
(質問数:20問、所要時間:5分) ***必須**



Q1. 来館された日はいつですか(西暦でご記入ください) *

Q2. 大学名・学校名をご記入ください *

Q3. 専攻分野について * (1つだけマークしてください)

1 文系 2 理系 3 その他 (→Q3-1に学部・学科等の名称をご記入ください)

Q3-1. (Q3で「その他」を選んだ方) 学部・学科等の名称をご記入ください

Q4. 学年は * (1つだけマークしてください)

1 大学1年 2 大学2年 3 大学3年 4 大学4年 5 大学院生 6 留学生 7 その他

Q5. 性別は * (1つだけマークしてください)

1 男性 2 女性 3 その他・答えたくない

Q6. ご来館の人数は(自分を含めて) * (1つだけマークしてください)

1 1人 2 2人 3 3人 4 4～9人 5 10～19人 6 20人以上

Q7. ご来館のグループ構成について、当てはまるものを一つ選んでください * (1つだけマークしてください)

1 同伴者なし 2 友人と 3 家族・親戚と 4 大学の同級生と(授業の一環で来館)
5 恋人と 6 ゼミ・サークルなどの団体で 7 その他

Q7-1. (Q7で「その他」を選んだ方) ご来館のグループ構成についてご記入ください

Q8. 博物館や美術館を利用する回数はどのくらいですか * (1つだけマークしてください)

1 数年に1回程度 2 年に1回程度 3 年に数回程度 4 月に1回程度 5 月に数回以上

Q9. 当館へ来館されるのは何回目ですか * (1つだけマークしてください)

1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目以上

Q10. 「大学パートナーシップ」(常設展無料・特別展割引)を利用して来館されたのは何回目ですか *

1 初めて 2 2回目 3 3回目 4 4回目以上

Q10-1. (Q10で「初めて」を選んだ方) これまで当制度を利用されなかったのはなぜですか(複数回答可)
(当てはまるものをすべて選択してください)

1 制度を知らなかったから 2 知ってはいたが、なかなか利用する機会がなかった 3 興味がないから
4 大学から遠いから来館しにくかった 5 興味を持っている同伴者を探すが難しかった
6 利用の仕方がよくわからなかった 7 その他

Q11. 「大学パートナーシップ」制度による無料入館をどのようにして知りましたか(複数回答可) *
(当てはまるものをすべて選択してください)

1 大学に掲示されていたポスター・チラシ等で 2 大学HPや大学からのメールで 3 教員からの(授業での)紹介で
4 当館HPや当館のメールマガジン、Twitter等で 5 その他のSNSで
6 知人・友人に教えられて 7 館を訪れてはじめて知った 8 その他

Q11-1. (Q11で「その他」を選んだ方) 無料入館をどのようにして知ったのか、ご記入ください

Q12. 来館目的は何ですか(複数回答可) * (当てはまるものをすべて選択してください)

1 常設展見学 2 特別展「鳥 〜ゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統〜」見学[11/2(土)〜]
3 企画展「貝類展 人はなぜ貝に魅せられるのか」見学[11/26(火)〜]
4 行事・イベントに参加 5 大学の授業の一環として 6 デートのため 7 なんとなく 8 その他

Q12-1. (Q12で「8. その他」を選んだ方) 来館目的についてご記入ください

Q13. 入館料の特典(常設展は無料、特別展は630円引き)について、どう思いますか * (1つだけマークしてください)

1 無料(630円引き)だったので来館した 2 無料(630円引き)でなくても来館するが、来館しやすくなった
3 特にメリットとは感じない 4 わからない 5 その他

Q13-1. (Q13で「5. その他」を選んだ方) 入館料の特典について、どう思うかをご記入ください

Q14. 大学パートナーシップ入会校生向けの講座のうち知っているものはどれですか(複数回答可) * (1つだけマークしてください)

1. 大学生のための自然史講座 2. 大学生のための科学技術史講座
3. サイエンスコミュニケーション養成実践講座 4. 科博オンライン・セミナー〜サイエンスコミュニケーション初級編〜
5. 大学パートナーシップ&お茶の水女子大学 連携事業「海の自然史学的研究(臨海実習)」

Q14-1. オンラインで講座が開催される場合、どのような形式を希望しますか(複数回答可)

1. 1回や1日などの単発形式 2. 複数回の講義で構成される形式 3. オンラインと対面のハイブリッド形式

Q14-2. 今後実施してほしい講座やイベントがございましたら 自由にご記入下さい

Q15. 当館がSNSで情報発信をしていることを知っていますか

1. 知っている 2. 知らない

Q15-1. (Q15で「1. 知っている」を選んだ方) 当館の情報を得るときに利用 するSNSはどれですか(複数回答可)

1. X(旧Twitter) 2. Instagram 3. Facebook

Q16. 当制度をどのようにPRすると、より利用しやすくなるでしょうか。ご意見をお聞かせ下さい

Q17. 当館をご覧になった印象、感想などを自由に記入下さい(例えば印象に残った展示物の名前や、その理由など)

Q18. 「大学パートナーシップ」制度に関するご意見・ご要望等がございましたら自由にご記入下さい

<以下は自然科学に関するアンケートです>

Q19. あなたは、自然科学についてのニュースや話題に関心がありますか * (1つだけマークしてください)

1 関心がある 2 ある程度関心がある 3 あまり関心がない
4 関心がない 5 わからない

Q20. あなたは普段、自然科学に関する情報をどこから得ていますか(複数回答可) *
(当てはまるものをすべて選択してください)

1 テレビ 2 ラジオ 3 インターネット(Webサイト)
4 SNS 5 新聞 6 一般の雑誌(週刊誌・月刊誌など)
7 書籍、専門誌(ユートン、日経サイエンス、mitなど) 8 科学館・博物館 9 シンポジウム・講演会・大学や研究機関主催のイベント
10 家族や友人との会話など 11 仕事を通じて 12 大学・学校
13 どこからも得ていない 14 わからない 15 その他

Q20-1. (Q20で「15. その他」を選んだ方) 普段、自然科学に関する情報をどこから得ているかをご記入ください

【確認メッセージ】
ご協力ありがとうございました。お送りいただいたご意見は、今後の事業運営に役立てていきます。
「特製バーチャル背景」はこちらからダウンロードしていただけます→
<https://www.kahaku.go.jp/learning/enquete/screen.php>